

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2010年10月号 通巻22号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2010

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

東京タヌキと生物多様性

タヌキを取り巻くさまざまな動植物たち



タヌキが食べるものの例(一部)を左図に示した。左側が動物性、右側が植物性。タヌキは動物性も植物性も食べる雑食である。積極的な狩りはせず、入手しやすいものを食べている。

今年10月、名古屋市で生物多様性条約第10回締約国会議が開催されます。「生物多様性」とは「多様な生物がいること、多様な生態系があること、多様な遺伝子があること」を意味します。それを保全するための国際的な話し合いがこの締約国会議です。生物多様性というとアマゾンの熱帯林やアフリカのサバンナ、日本なら知床や屋久島といった場所を頭に思い浮かべる方が多いでしょう。しかし、世界的大都市の東京にも生物多様性は存在するのです。

タヌキはなぜ生きていける？

それを象徴する存在こそが東京タヌキです。タヌキも動物ですから何かを食べなければ生きていけません。タヌキのフンを分析すると、何を食べているかがわかります。その食事の内容は、動物性の物も植物性の物もあります。つまりタヌキは雑食なのです。動物性の食べ物は、昆虫類(コガネムシ類、ゴミムシ類などの甲虫やハサミムシ類が多い)、ム

カデ、鳥、カエルなど。植物性は、カキノキ(柿)、イチョウ、ビワといった果実類などです。

タヌキはライオンやオオカミのような器用なハンターではありません。そこら辺にある、簡単に入手できるものをいろいろと食べる生活をしています。消極的にも見える食事方法ですが、こういった食べ物は都会でも条件がそろえば入手することができるものです。ですからタヌキは東京のような大都会でも生きのびることができるのです。

このことを視点を変えて見てみると、「タヌキがいる＝タヌキが食べる動物や植物も十分にある」ということになります。つまり、多くの人たちは気づいていないかもしれませんが、大都会にも動物や植物がたくさん存在していることを東京タヌキが証明しているのです。

見直されるべき都市生態系

都会にも多様な生物が存在するという事は、生物多様性があるとい

うことであり、「都市生態系」とも呼ぶべき生態系が成立していることにもなります。都市生態系は、熱帯林ほどの豊かな自然環境ではありません。しかし、生物たちは都市環境に適応し、自立して生息しています。これも立派な生態系と言えるのです。私たちは都市生態系をもっと見直すべきではないでしょうか。そしてそこにいる生物たちに目を向けることも必要です。

「生物多様性」も「自然環境」も遠い世界の話ではありません。私たちの足下にも存在していることを忘れてはなりません。東京タヌキはそれを私たちに示しているのです。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

東京都および周辺地域のタヌキ情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>